安曇野明科 旧国鉄篠ノ井線 廃線敷遊歩道

煉瓦の隧道と三万本の欅が待つ

AZUMINO AKASHINA

●明科駅から片道 6KM

至筑北

至池桜

この先800mの所に池桜の夜泣き道祖神

Kyu Daini sirasaka Tunnel
旧第2白坂トンネル 通行不可

橋を渡る

P

R403号に接した大駐車場

遊歩道入口 Promenade entrance

案内図 34.2kp

MLToilet

R403

小沢

ケヤキとけやきの斜面

35 35km/hのこと

速度標識 33.6kp

敷地幅が広い

潮沢信号場跡

Ushiasawa
潮沢信号場跡

旧第2白坂トンネル 1.2km
漆久保トンネル 0.5km

アーチ型石積

33キロポスト 33kp

Hukan-Kakumei Statue
普賢・覚明像

普賢像
覚明像

トンネル内のレンガの模様が美しい

53m
漆久保トンネル Urushikubo Tunnel

山道を上がる

59m
小沢川橋梁 Ozawagawa bridge.

ここが廃線敷

ベンチ 標識

小沢川

こちら側にもしじかが極みが見られる

作業場

遮断機

駐車場・トイレ toilet

電柱と桜の木が続く

ケヤキの斜面

ポイント切り替え装置展示

民家

7つ目の中継信号機 signal

福寿草 ハナモモ

この辺りに7つ目の信号機がある。

桜並木

大正13年、この地で大規模な地滑りが発生し列車が転覆した。

32kp
32キロポスト NTTドコモアンテナ

トイレ toilet

けやきの森自然園

ベンチ

カエデの木・Keyakinomori nature garden

踏切跡

けやきの斜面

潮沢川

かしの樹(食堂)

31.5kp
31.5キロポスト

踏切跡

砂防えん堤

31kp
31キロポスト

Dosojin
道祖神 10m程入る。

遮断機もそのまま
railroad crossing gate

Sanchu hachimangu
山中大天白八幡宮

・天神宮
・疱瘡神の石碑がある

Higashidaira
東平

東平下り口

Sanchuhachimangu
山中八幡宮

民家

用水5mの橋

30.5kp
30.5キロポスト

けやき
Keyaki

太い電柱がいくつも残る

けやきの斜面

トンネル上に車道がある

三五山トンネル 125m Sagoyama Tunnel
・レンガの壁面が見られる

電柱

潮神明宮
Ushiosinmeigu

Noth ALPS view
北アルプスの眺望
(ベンチと眺望図)

300m間に70本の桜並木
Row of cherry trees

安国寺

Promenade entrance 遊歩道入口

駐車場・トイレ
parking toilet

←木戸 Kido

R19

←おいりす
200m 廃線敷遊歩道

明科総合福祉センター
おいりす

木戸橋 Kidobashi br

至長野市

潮
Usio

明科高校入口
Akashina H.S.Ent.

Supermarket
スーパーデリシア

歩道橋 Pedestrian bridge

東栄町
Higashisakaecho

至明科高校

明科町交番
KOBAN

明科駅歩道橋 Pedestrian bridge

JR明科駅
Akashina Station

明科駅→
Akashina Sta.

神明宮本殿

R19

至松本市

JR篠ノ井線 JR Shinonoi Line
第一白坂トンネル長1,292m
Daiichi Shirasaka Tunnel

Aidagawa river
会田川

施行田橋

漆久保トンネル

明治30年に開通した全長53mの総レンガ造で、百年前の鉄道トンネルの典型として文化的価値が高い。保存状態が良く当時の面影を残している。

トンネルの基本構成

普賢・覚明像(不動明王)

本尊の御紹介の表参道を開いた普賢像と覚明像。漆久保トンネルの上を通る細道は大谷の参考道で、この道を通る旅の安全を願って石像を祀ったものと考えられている。また普賢像の鼻が欠けているが、測量技師が測量する際、石像の鼻が邪魔になり、矢に鼻をちぎって切って落とせ、見通しを良くしたといわれている。

※現地案内板を抜すい。

小沢川橋梁(スパン4m 延長59m)

アーチ部と橋脚とが直交していない75度斜めのアーチで、上部の橋壁(スパンドレル)の仕上げなに最大の特徴がある。煉瓦の積み方は、イギリス積みで、長手面が橋壁に沿って積まれているのに対し、小口面は等間に積まれているため鋸歯状となっている。このような積み方は、全国的にも珍しい積み方である。

※現地案内板を要約

小沢川橋梁の様子

けやきの森自然園

廃線敷沿いに分布する鉄道沿線林は、斜面災害の防備落盤などの防止のために、九二年(大正十年)全国に先がけて指定された。

当初は二七アカシアが植林されたが、一九四五年(昭和二十年代)にけやきへ計画変更された。防備林の整備とともに、地滑り対策として斜面の表面を削り、滑る地盤や地下水位を下げるための井戸などが点在する。

自然災害に苦労した旧篠井線

篠井線西条~明科間の工事は、難工事を乗り越えて明治三五年六月五日に開業した。しかし地盤は弱く下も有数な地滑り地帯で、しばしば災害に見舞われてきた。大正十年に発生した地滑りは、鉄道開通後最大級で、列車が脱線転覆し、復旧には相当の日時と費用を要したと伝えられている。

※現地案内板の内容を抜すい。

道祖神 Dosojin

記念碑
永年にわたり公ケ保地区の多くの人に守り続けてきた道祖神と廃塔を有志により此所に移す

・公ケ保地区の道祖神・庚申塔
・庚申供養塔は宝暦十三年の記名。(1763年)

ホーイ

direction

旧国鉄篠ノ井線は、明治35年に全通。長野県の南北を結び多くの人や物資を運搬してきました。昭和45年に蒸気機関車が姿を消して電化され、昭和63年に新線が完成したことで86年間の役目を終えました。

勾配標

線路脇に立つ標柱。上向きの板の数字は、25.0パーミル(1km進んで25m上がる)上り勾配を示す。もう1枚の下向きの板は、下り勾配2・18.20パーミルを示している。

距離標

線路脇に立つ標柱。数字は塩尻駅からのキロポストを示すもので、100mおきに設置されている。

30キロポスト
33.5キロポスト

潮沢信号場跡

昭和36年10月設置

単線で駅間の長い明科=西条間の列車本数を増やすため、その中間に設置された列車行き違いのためのスイッチバック式(折り返し式)信号場である。

けやきの森自然園 Keyakinomori nature garden

漆久保トンネル 0.8km Urushikubo tunnel	三五山トンネル 2.1km Sagoyama tunnel

三五山(さごやま)トンネル

明治三十五年に連設された全長百三十五mのレンガ煉瓦造のトンネルである。天井のモルタル部分は、旧篠ノ井線が電化される直前(昭和四十年頃)水漏れ補修に付着するのを防ぐための吹き付けによる補修工事をされたためである。

部分を確認できるのは側面下方だけである。

この先の旧第二白坂トンネルまで最急勾配二十五パーミル(一キロ進んで二十五m上がる)のきつい坂が続くが雨天時に蒸気機関車が滑って上がれないための勾配をつけて上り直すため景色も珍しくなかったという。

※トンネル案内板による。

潮廃線敷桜並木

この桜並木は、安曇野市制施行十周年記念市民提案事業に潮区が応募し採択され植樹しました。

- 植樹日 平成27年5月24日
- 樹種・数 陽光桜 70本
- 区 間 三五山隧道までの約300m
- 実施団体 安曇野市・潮区
- 参加者数 106人(3世39人)
- 管理団体 潮区・廃線敷を守ろう会

※神明宮前の案内板による。

安曇野市指定文化財

潮神明宮本殿:神社建築・一対・日吉造・平面三間社流造・一重・檜皮葺

潮神明宮は、平安から鎌倉時代に創建されたと思われ、戦国時代には、麻績神明宮の神主が神事を行っている。本殿は棟札から明和8年(1771年)の建造と思われる。本造建築は仁科氏より寄贈されたものと言われ室町時代末期の作と思われる。寄進状は、小笠原氏に所領を与われた日吉氏が旧領の回復を祈念し神明宮に神田を寄進した時の書状である。(抜すい)

© ゆうた